

農産 F A X 情報 第 8 号

令和 4 年 9 月 1 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦（作付前の準備）

○心土破碎

- ・今年春先の融雪水による湿害が散見されました。春の排水対策は難しいため、サブソイラ等で耕盤層を破碎し、土壌の通気性・排水性を確保しましょう。
- ・土壌水分が多い状態で作業機が入ると土壌物理性の悪化をまねくことがあります。サブソイラ等の施工は土壌の乾燥状態を確認してから実施しましょう。

○土壌 pH の矯正

- ・秋まき小麦は酸性の耐性が低く、低 pH 土壌では収量が落ちる傾向があります。pH5.5～6.0 を目標に石灰質資材を投入しましょう。
- ・生石灰・消石灰は種子に触れると障害を起すことがあります。施用する際は、は種の 1～2 週間前に土壌と混和しましょう。

2 てんさい

○褐斑病の防除

- ・一部地域で発生が確認されております。9 月以降も引き続き防除を実施しましょう。
- ・気温が高く、降雨や夜間の霧により多湿条件が予想される場合は防除間隔を短くすることを検討しましょう。例) 通常 15 日以内→10 日以内

○ヨトウガの防除

- ・8 月下旬にヨトウガの若齢幼虫が確認されております。ほ場観察を行い、第 2 世代幼虫を防除しましょう。
- ・残効性の高い薬剤を発生初期に散布することで、長期間の密度低減が期待できます。

3 豆類

○さび病の防除

- ・地域で発生が確認されています。薬剤の選定は、灰色かび病防除等で使用した薬剤の系統を確認し、同系統薬剤の連用に注意しましょう。

4 ばれいしょ

○疫病（塊茎腐敗）の防除

- ・疫病による塊茎腐敗の拡大を防ぐため、9 月以降も防除を実施する場合は収穫前使用時期に注意しましょう。

収穫作業は周囲に注意し、こまめな声かけを！

ドリフト防止を励行、収穫が近い作物には特に注意！